

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想 【外国語／コミュニケーション英語Ⅲ】

1. 対象

普通科3年生

真面目であるが、積極的に思っていることを発言できる生徒は少ない。指示された言語活動には意欲的に取り組むが、語彙力の不足から英語で表現することを躊躇する傾向が見られる。

2. 単元名

SET THE GOAL Lesson 15（数研出版）（全4時間）

3. 単元目標

- ・嘘をつくことに関する文章を読んで、概要や要点を理解できる。(Reading)
- ・知識のある話題に関する文章を聞いて、要点を理解することができる。(Listening)
- ・英文の概要や要点を説明することができる。(Spoken Production)
- ・身近な話題について簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。
(Spoken Interaction)
- ・関心のある分野のテーマについて自分の意見やその理由を加えて書くことができる。(Writing)

4. 本時の目標

- ・ディベート活動を通じて嘘をつくことについて意見交換ができる。
- ・他者と協力しながら嘘をつくことに関する文章を論理的に読むことができる。

5. 授業展開

解決したい課題や問い

嘘をつくことは悪いことでしょうか。

考えるための材料A	考えるための材料B
5つの段落がバラバラになった英文	語彙のヒントが与えられている段落ごとの英文
想定される活動	想定される活動
・各自が初見英文を読み、概要を理解しようとする。 ・論理的な文章になるように段落を並べ替える。	・グループ内で協力しながら各段落の内容を理解する。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- (活動前) 嘘をつくことの是非について考える。
- (活動1) ディベートで嘘をつくことの肯定意見と否定意見を述べる。
- (活動2) 個人で段落がバラバラになった英文を読み、論理的な文章になるように並べ替える。
- (活動3) 段落ごとのグループを作り、メンバーと協力しながら内容を読み取る。
- (活動4) 異なる段落を読んだ者でグループを作り、それぞれの内容を説明する。
適切な段落構成になるよう並べ替える。
- (活動5) 英文全体を日本語で要約する。
- (活動後) ワークシートに嘘をつくことについてあらためて考えたことを英語で書く。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）	
<ul style="list-style-type: none"> ・英語でのディベートを通して、様々な視点から物事を見ることができるようになる。 ・他者と協力しながら課題に取り組むことができる。 <p>（英文の内容についてグループ内で話し合うことができる。また、お互いに得た情報を共有し、論理的な文章を構成することができる。）</p>	
育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点	
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・即興で自分の意見を述べることができる。 ・与えられた英文の内容を的確に読み取ることができる。
②思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・嘘をつくことのメリットとデメリットについて英語で表現することができる。 ・与えられた材料をもとに、どうすれば筋の通った文章になるか考えることができる。
③主体性・学びに向かう力 協働性など	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を用いたディベートを通して、相手の意見を理解し、それに対する反駁をしようとしている。 ・話し合いで得た情報をもとに、他者と協力しながら論理的な文章を構成できる。

授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	Once we tell lies, we have to tell them again to hide the truth.	Several studies show that we grow by telling lies. There are two types of lies: malicious lies and white lies.
Bさん	I feel guilty when I tell lies.	We should not tell lies that make us feel guilty. However, people might not be offended by the lies to form and maintain close relationships.
Cさん	I sometimes tell lies depending on the situations.	Telling lies is acceptable in our society to smooth our relationships. The important thing is who we tell lies for.

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	<ul style="list-style-type: none"> 「嘘をつくこと」という日常の行動に関する内容を課題としたが、高校3年生とすることを考慮すると、社会的なテーマを課した方が良かったかもしれない。課題の難易度が上がると、英語でのアウトプットの難易度も上がってしまうので、それをどのように克服していくかが難しいと感じた。
考えるための材料	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力不足から英文読解に苦勞する生徒が多いと感じたため、考えるための材料に日本語の注釈をつける形をとった。エキスパート活動ではお互いに協力して読解する姿が見られたので、適当なレベルであったと考えられる。
対話と思考	<ul style="list-style-type: none"> ディベートでは言いたいことはあるものの、英語でどう表現したらよいかかわからず苦戦している姿が見られた。 ジグソー法を取り入れ、一人ひとりに役割を持たせたが、ジグソー活動の段落の並べ替えでは、成績上位者がリードする形となった。
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> 嘘については否定的な考えを持っている生徒がほとんどであったが、心理学的側面から嘘について考察することによって、知らず知らずのうちに自分が状況に応じて嘘をついていることに気づいた者もいたようである。